

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第34回新潟救急医学会

日 時 平成9年7月12日(土)  
午後2時～

会 場 新潟大学医学部大講堂

## I. 一般演題

 1) 救急領域における酢酸リンゲル液(ヴィーンD・F)の使用  
—最近の話題—

吉川 恵次(新潟大学救急部)

救急領域のうち、特に外傷、熱傷、手術患者など主として救急外科領域の患者で用いられる酢酸リンゲル液について最近の話題も含め、概説した。前段として生体に外科的侵襲が加わった場合の体液変動について解説した。すなわち、出血などによる絶対的な細胞外液の減少のほか、いわゆる、細胞外液の3rd spaceへのsequestration(死蔵)、非機能化による、循環血液量の減少が惹起され、さらにさまざまな機序による代謝性アシドーシスが加味される。以上より、循環血液量を維持、回復、ショックを回避するためには、大量の細胞外液補充液の投与が必要となる。細胞外液補充液は血漿に類似した電解質組成を有するほか、アルカリ化剤が添加されている。アルカリ化剤として酢酸ナトリウムを用いた酢酸リンゲル液(ヴィーンF)[5%ブドウ糖加酢酸リンゲル液(ヴィーンD)]について、乳酸リンゲル液と対比しながら、その救急領域における使用上の特徴を中心に概説した。

## 2) 燕労災病院循環器病棟における心肺脳蘇生術の指導について

山後 紀子・近藤 範子	(燕労災病院 4西病棟)
五十嵐昌子・吉田 千恵	
武田 和子	(同 循環器内科)
宮島 静一・草野 頼子	
那須野暁光	(新潟薬科大学 臨床薬理)
渡辺 賢一	

【はじめに】当院での外来看護婦の研究により Dead on Arrival (以下 DOA と略す) で搬送されてきた患者の

ほとんどがなんらかの心疾患をもっていたことがわかった。そこで救命率を向上させるために第一発見者とならう可能性の高い家族には心肺脳蘇生術(以下 CPR と略す)に対する知識が必要なのではないかと考え1994年4月より指導を開始した。

【対象と方法】① CPR 指導を希望し、承諾書がとれた心疾患患者74名及び家族86名計160名を対象とした。② 方法は患者及びその家族にパンフレットを渡す。③ 指導は看護婦2名とし、1名は実技指導を行い、1名は技術チェックリストを用いて技術評価を行う。④ CPR直後にアンケート用紙に記入してもらう。

【結果】現在までに160名余りへの指導を行ったがまだ1回のみ受講がほとんどである。実際に患者が倒れた時、気が動転してしまい、何もできなかったのもう一度指導してほしいと再入院時希望した家族がいた。指導直後のアンケートでは「家族のため生死に関わることなのでしっかり覚えたい」という意見が多数を占めたが、その反面「いざという時できるか不安」等の意見も聞かれた。

【結論】心疾患患者74名及び家族86名計160名に CPR 指導を施行した。積極的に参加する人が多く、CPRにより1例救命できた。1回の指導では知識の向上にはなるが、実際の場面で施行できるとは限らず数回の指導が必要と思われた。

## 3) 新潟県のヘリコプター救急について

黒井 秀二(新潟県消防防災  
航空隊)

## 1. 全国の消防・防災ヘリコプター整備状況

平成8年度末現在、消防ヘリコプターは、14政令指定都市等において26機、防災ヘリコプターは、28道県に32機整備されている。平成10年度末には、ほぼ全国的な配備が完了する見込みであり、新潟県では、平成7年4月1日より運行を開始している。

## 2. ヘリコプターの性能諸元

搭乗者数総数は15名で、4担架までの積載が可能であり、医師、看護婦、付添人など2～3名が搭乗でき、最高速度は287km/h、航続時間は3時間40分、航続距離は920kmであり、県内全体をカバーするのに十分である。

## 3. 運航体制

運航：土日、祝祭日、年末年始を問わず365日、通常運航：午前8時30分から17時15分まで、緊急運航：原則；